

## ニジマスを用いたイケチヨウガイ採苗方法の検討

幡野 真隆・石崎 大介

### 1. 目的

近年、県下最大の漁場である西の湖において、真珠母貝の成長が回復してきていることから、真珠養殖団体での母貝生産が再開されている。真珠母貝の種苗生産においては、寄主となる魚の確保が大きな課題であるが、グロキディウム幼生の寄主に適した魚種は限られている。しかし、種苗生産に用いる健全な魚を安定的に確保したり、長期的に飼育したりすることは困難であり、多大な労力を要している。そこで、安定的に入手可能で、比較的安価な養殖魚であるニジマスを用いた真珠母貝の種苗生産が可能か検討した。

### 2. 方法

醒井養鱒場産のニジマス（平均体重 16g、6g）に、グロキディウム幼生を寄生させ、水槽内に設置したかごの中で飼育し、ほぼ脱離が終了するまで寄主の生残数、脱離稚貝数を計数した。また、大型のニジマス（平均体重 37g）を用い、生残率を高めるために酸素ガスを添加して採苗を行った試験区と生理食塩水で飼育した試験区を設けて採苗を行った。

### 3. 結果

平均重量 16g、6g の魚を用いた採苗では、寄主 1kg あたり約 2,500～4,000 個の脱離稚貝が得られたが、脱離直前～脱離時期に寄主の大半が死亡し、採苗効率は低かった（図 1）。37g の魚を用いた試験では、どの区でも死亡はほとんど認められず、採苗効率は約 18,000 個/kg となり、寄主として好適なヨシノボリ等（約 8,000～15,000 個/kg）に匹敵する効率が得られた（図 2）。既往知見では、寄主は小さいほど採苗効率が低いと言われているが、ニジマスでは試験を行った範囲（6～37g/尾）において、寄主のサイズと採苗効率の間には

正の相関が得られ、大型個体の方が採苗効率は高く、寄主として好適であると考えられた（図 3）。以上のことから、ニジマスを用いた真珠母貝生産が可能であることが示された。

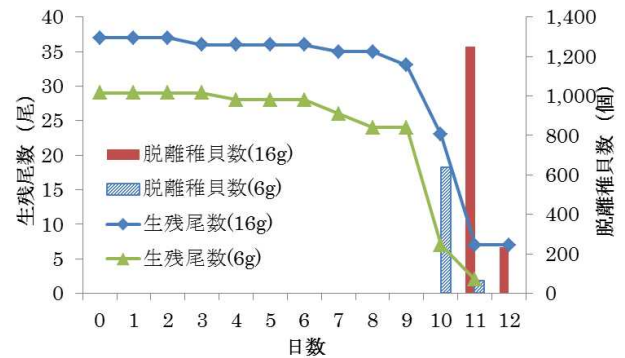


図 1 ニジマス（平均重量 16g、6g）を用いた稚貝採苗結果

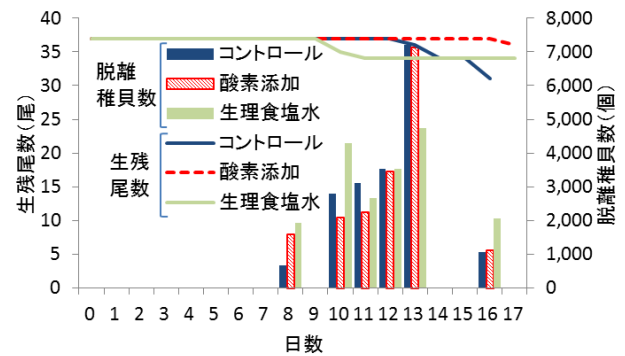


図 2 ニジマス（平均重量 37g）を用いた稚貝採苗結果

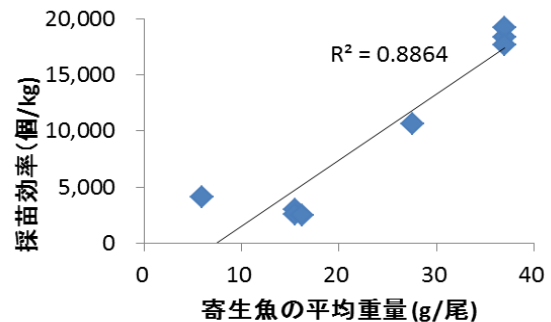


図 3 ニジマスの平均重量と脱離仔貝の採苗効率との関係